

止めさし編 ①. 器材の種類

止めさしは捕獲個体に接近しなくてはならないため、非常に危険を伴う行為です。保定により動物の動きを止め、十分に安全に配慮して行いましょう。

※初心者の方は、必ず熟練者の指導のもと実施してください。

【電気止めさし器】

電流を捕獲個体の脳や心臓に流します。短時間で捕獲個体の止めさしが可能なこと、流血がなく、使用者の精神的負担が少ないことから、初心者でも使いやすい止めさし器具です。ただし、感電防止には細心の注意を払う必要があります、ゴム長靴、ゴム手袋は必須です。また、雨の日や雨のあとで地面が濡れている場合は使用を控えてください。



【ナイフ・ヤリ】

十分な長さや厚みのある刃物により、捕獲個体の胸部を刺突して止めさしします。ナイフの場合、手がすべることによるケガを防止するために、鰐（つば）のあるものを用いましょう。

【鈍器】

眉間もしくはこめかみを殴打して失神させ、その後速やかにナイフで止めさしします。

【銃】

頭部や頸部、心臓を撃ち、止めさしします。接近が危険と判断される場合や、銃以外の止めさしの技量に不安がある場合は、銃所持者の方に協力を要請しましょう。



※銃刀法において、刃渡り 15cm 以上の刀、やり、なぎなた及び刃渡り 5.5cm 以上の剣等は、刀剣類として原則、所持が禁止されています。止めさし器具の使用にあたっては、銃刀法の内容をよく確認してください。

止めさし編 ①. 器材の種類

くくりわな等で動物を捕獲し、接近して止めさしする場合、専用の器具によって捕獲個体を保定します。安全にわな猟を行うためには、保定について学んでおく必要があります。

保定器材

【足 錠】

動物の足を挟み、木に結びつけることで動きを止める。



【鼻くくり】

イノシシは上あご、オスジカは角をワイヤーで縛り、木に結び付け動きを止める。



【チョン掛け】

くくった足のワイヤーの根元に向け、わなのワイヤーと逆方向に引っ張り木に結び付け動きを止める。



保定器材は2m程度の棒に装着します。器具に付属するワイヤーの端には、捕獲地点周辺の木に結び付けられるよう、長めのロープを繋いでおきます。



使用方法

保定器材で足や上あご、角を拘束したのち、速やかにロープを近くの木にしばりつけます。この際、テンションは強くかけるようにします。保定具の使用時は捕獲個体が自由に動ける範囲を把握し、必ず斜面の上から十分に注意して接近してください。斜面の下側からではわながはずれ、捕獲個体が突進してきた際によけられません。



止めさし編 ② . 箱わな

箱わなで捕獲した際、すでに捕獲個体の自由がある程度奪われているため、不用意に近づきがちですが、箱わなが壊れる可能性や、捕獲個体の反撃の危険もありますので十分に警戒してください。特にイノシシの場合は、鼻先をメッシュから出して噛みつこうとしてくる場合があります。以下に示す保定、止めさしの手順は慎重に行ってください。

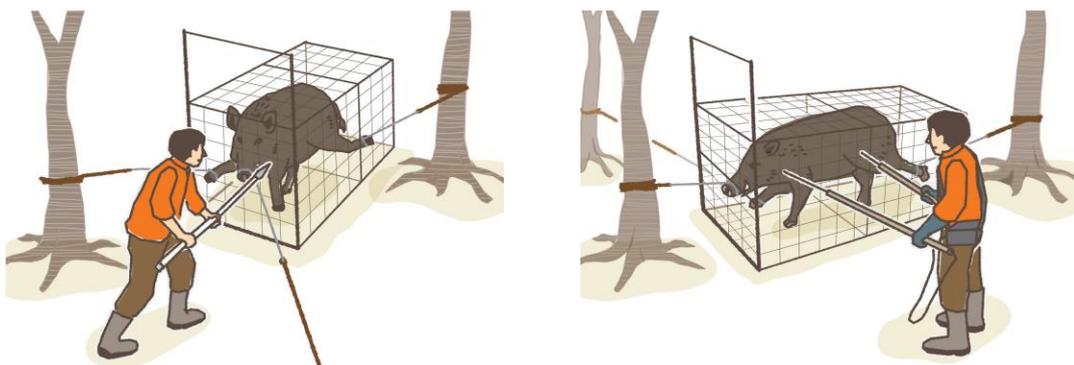
保定

箱わなで捕獲した個体の保定方法は、前述の保定器具を用い、足や角、上あご等を拘束する方法と、メッシュに角材や木の枝を挿し、捕獲個体の動けるスペースを狭める方法が一般的です。



止めさし

箱わなで捕獲した個体は、ヤリか電気とめさし器で止めさしをするのが一般的です。ヤリは正面からのど元や胸部に向かって、あるいは横から心臓を刺す方法があります。電気とめさし器を使用する場合は、捕獲個体を介して金属製の箱わなにも通電しているため、感電に注意してください。



止めさし編 ③. くくりわな

くくりわなで捕獲した動物は、ワイヤーの長さ分は動くことができるため、止めさしの際は箱わな以上に危険を伴います。むやみに近づかず、捕獲個体やワイヤーの状態を離れた場所から双眼鏡等で確認しましょう。また、近づく際は木に隠れながら徐々に進みましょう。特に下記の状態は重大な事故につながる恐れがあります。



ワイヤーがキンクしている

ワイヤーがキンク（ねじれ、曲がり、素線の破断）している場合、その部分の強度が弱まり、捕獲個体が暴れた際に破断する恐れがあります。ワイヤーの点検はわな設置前に必ず行い、捕獲後もワイヤーの状態を確認してください。



捕獲個体の足がちぎれかけている、またはくくりが浅い

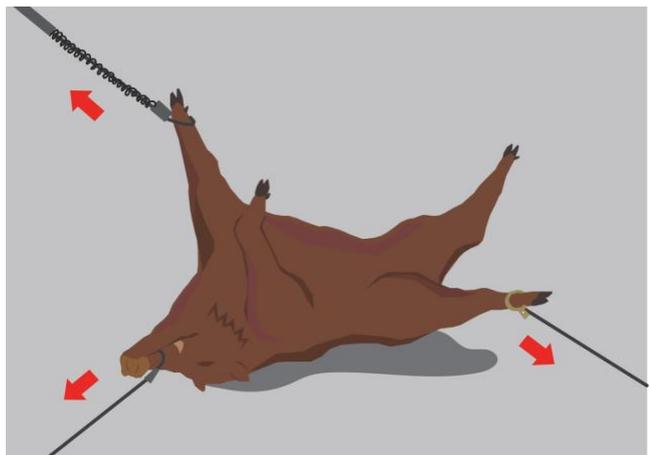
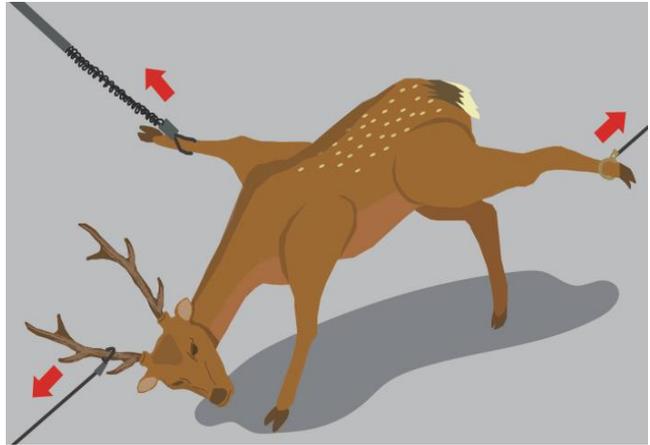
くくりわなで捕獲した場合、逃走しようとする動物の衝撃がくくった足にかかるため、発見時に足を損傷していることがあります。特にイノシシの場合、足をちぎって突進してくる可能性もあるため、くくった足の損傷程度やくくりわなのかかり具合はよく観察してください。



止めさし編 ③. くくりわな

保 定

保定は、わなでくくった足の対角の足を拘束し、引っ張ることによって動きを止めるのが基本です。このほか、オスジカの場合は角、イノシシの場合は噛みつきによる反撃を防ぐために、輪を作ったワイヤーで上あごを拘束する方法もあります。イノシシは、顔の前に輪にしたワイヤーを出すと、噛みついてくるので、その瞬間に上あごを縛り上げます。保定が完了した後、捕獲個体を引き倒し腹部を上に向けると、以降の止めさし作業がしやすくなります。



止めさし

保定により、捕獲個体が自由に動けない状態になったら、刃物、鈍器、電気止めさし器等を使用して止めさしします。保定しているとはいえ、捕獲個体は急に暴れることがあるので、接近時は躊躇せず、冷静かつ速やかに止めさしを行いましょう。

